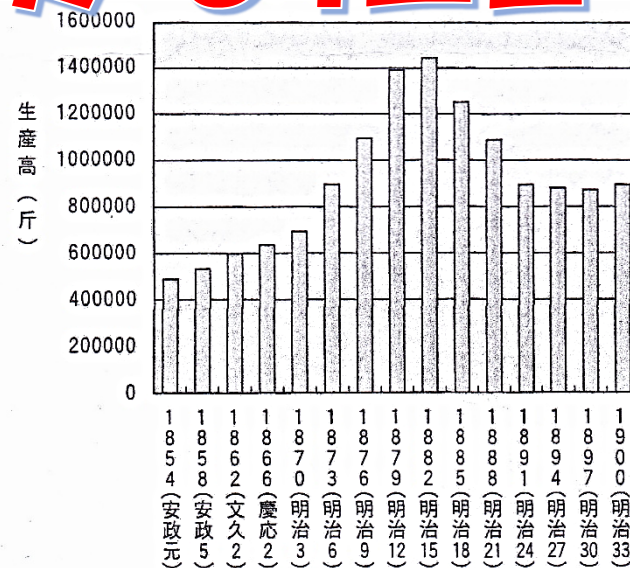


前回は出口修さんは美濃山の話をして下さいました。江戸時代の元禄年間の美濃山開発は4か村(内里、岩田、戸津、松井)の反対で不発でしたが、8代将軍の徳川吉宗の享保の年間に年貢を増やすために4度の開発が試みられたそうです。でも、開発により山が崩れ、土砂災害が起こり、結局山の木の根っこを残し、川の両岸の乱伐を禁止して木の苗を植えるようにとの掟がだされたとのこと。

美濃山は今、筍の生産地として八幡では知られていますが、明治10年の資料を見ますと当時はお茶の収穫量が八幡の村内で一番多かった。明治15年にはお茶をアメリカに輸出していたそうです。想像がつかますか？

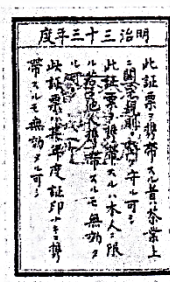
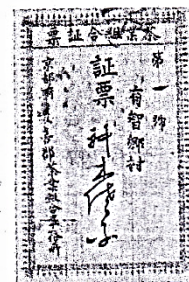
- ① 日時 2025年2月14日(金)13時30分～
- ② 講師 出口修さん
- ③ 参加費 100円



綴喜郡製茶生産高  
(出口さんの資料から)

\*『山城綴喜郡誌』より作成

茶業組合証票  
(明治33年)



**八幡まるごと館**/八幡市男山松里12-20 (TEL&FAX) 075-983-3664  
(E-MAIL) [yawata@marugotokan.net](mailto:yawata@marugotokan.net) 作られたホームページは <http://marugotokan.net/>  
又は、八幡まるごと館で検索して下さい



八幡まるごと館は街行く人のだれもが自由に立ち寄れる“地域サロン”です。休館日は毎週火曜日全日と土・日午後です。